

内部監査の転換：業務の将来、新たなリスクと傾向

お手数ですが、本調査のご協力をよろしくお願いいたします。
ます。所用時間は、20～30分程度を想定しています。

本調査は、アジア太平洋地域のさまざまな業界の内部監査人が、組織体が直面しているリスクの増大に対処する際に、内部監査（内部監査人）の役割を転換することをどのように認識しているかを理解すること、内部監査人がどのように視点と事業モデルを変化するかについての洞察を把握すること、機動性の変化を識別すること、内部監査人が監査対象領域として従業員の福利厚生にどのように取り組むかを明らかにすることを目的としています。

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

* 回答必須項目

データプライバシーへの同意と免責条項

本調査に関心をお示しいただき、誠にありがとうございます。
本調査は、アジア太平洋地域のさまざまな業界の内部監査人が、組織体が直面しているリスクの増大に対処する際に、内部監査（内部監査人）の役割を転換することをどのように認識しているかを理解すること、内部監査人がどのように視点と事業モデルを変化するかについての洞察を把握すること、機動性の変化を識別すること、内部監査人が監査対象領域として従業員の福利厚生にどのように取り組むかを明らかにすることを目的としています。

本調査を通じて皆様の回答を取りまとめさせていただきます。

本調査で回答を収集することに加え、必要に応じてフォローアップを目的としたご連絡がとれるように、社名やメールアドレスなどの一部の個人情報も収集させていただきます。

本調査により収集されたデータは、第三者には一切開示されません。

ご同意いただける場合は「はい」を選択してください。
以下の調査回答を進めていただくことで、回答データが収集されることに同意いただいたとみなされます。

1. 本調査目的のために内部監査人協会アジア地域連合によりデータが収集されることについて、ご同意いただけますか？また、あなたの個人情報は適用される法律によって保護されていることをご理解いただけますか？*

- はい、同意し、承認致します。調査回答に進んでください。
- いいえ、同意しません。調査終了。

一般情報

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

2. 回答者のEメールアドレス*

3. 役職名（恐れ入りますが英文にてご役職をご記入ください）*

4. 所属企業の業種*

- 宿泊業、飲食サービス
- 事務管理、廃棄物管理、修繕サービス
- 農林水産、狩猟業
- 芸術、芸能、娯楽
- 建設業
- 教育サービス
- ファイナンス・保険業（注：民間金融機関を含む）
- 医療、社会扶助
- 情報技術
- 企業マネジメント
- IIA モンゴル
- 製造業
- IIA ニュージーランド
- 鉱業、採石、石油・ガス採取
- 専門職、科学および技術サービス
- 不動産、レンタル、リース
- 小売業
- 運輸、倉庫
- IIA 台湾
- 行政サービス
- 電気、ガス、水道
- 卸売業
- その他

5. 所属地域の内部監査人協会代表機関*

- IIA オーストラリア
- IIA 中国
- IIA フィジー
- IIA 香港
- IIA インド
- IIA インドネシア
- IIA ジャパン（日本内部監査協会）
- IIA 韓国
- IIA マレーシア
- IIA パプアニューギニア
- IIA フィリピン
- IIA シンガポール
- IIA スリランカ
- IIA タイ
- その他

6. 企業収入規模（米ドル建て）*

- 500 万ドル（約 5 億 2 千万円）未満
- 500 万ドル～1000 万ドル（約 5 億 2 千万～10 億 5 千万円）
- 1000 万ドル～5000 万ドル（約 10 億 5 千万～52 億 3 千万円）
- 5000 万ドル～1 億ドル（約 52 億 3 千万～105 億円）
- 1 億ドル～5 億ドル（約 105 億～520 億円）
- 5 億ドル～10 億ドル（約 520 億～1,006 億円）
- 10 億ドル（約 1,006 億円）以上

7. 内部監査部門の組織構造*

- 内部監査部門は、第三者のサービスプロバイダに完全にアウトソーシングされています。
- 組織体には、契約社員および/または正社員で構成される内部監査機能または部門があり、同時に内部監査機能の一部が第三者のサービスプロバイダーにアウトソーシングされています。この回答を選択した場合は、質問 9.に進んでください。
- 組織体には、正社員で構成される独立した内部監査機能または部門あります。

8. 内部監査部門の規模（例：正社員または外部委託にかかわらず、内部監査要員の数）*

- 10 人未満
- 10 - 20 人
- 21 - 30 人
- 31 - 40 人
- 40 人以上

9. 外部委託従業員数の比率（該当する場合）*

1～100 の数で入力してください。

テキストボックスに文字または記号（例：%）は入力できません。

数値は 1～100 の間でご入力ください。

組織体における内部監査人の新たな役割

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

10. 組織体において内部監査（内部監査人）によって実施されているサービスは、以下のうちどれですか？

（該当するものすべて選択してください）*

- 事業継続評価・コンサルティング（例：組織体の事業継続管理を改善するための提言の提供）
- コンプライアンス（例：対法令等へのコンプライアンスの評価）
- 財務（例：財務報告に係る社内コントロールの評価、取引および M&A のデューディリジェンス、具体的な会計および残高の見直し）
- 情報技術（例：企業のシステム開発ライフサイクルの支援とレビューを含む、情報技術関連リスクに対処するコントロールの評価）
- 運営（例：組織体の効率性と有効性の改善点を識別するために実施される評価）
- パフォーマンス（例：パフォーマンスおよび KPI の評価など）
- 持続可能性（例：事業体の経済的、社会的、環境的影響の評価）
- 研修（例：内部監査、ガバナンス、リスク、コントロールに対する技術的、実務的な知識または技能の習得または共有）
- その他

11. 過去 5 年間における内部監査部門の主な任務は次のうちどれですか。

優先順位の高いものを上から順に並べ替えてください。

*

- 組織体の社内コントロールを改善するための経営陣への助言
- 不正検出などの他のアドバイザリー・サービス
- 現行のコントロールの監督、実施されている政策・提言
- 事業者の事業継続の取組みに対する支援
- 組織体の社内コントロールに対するアシュアランス
- 組織体の全社的リスク・マネジメント活動に対するアシュアランス
- データ分析
- 人工知能と自動化されたプロセス/コントロールのガバナンスに対するアシュアランス

12. 今後 5 年間における内部監査部門の主な任務は次のうちどれだと思いますか。

優先順位の高いものを上から順に並べ替えてください。

*

- 組織体の社内コントロールを改善するための経営陣への助言
- 不正検出などの他のアドバイザリー・サービス
- 現行のコントロールの監督、実施されている政策・提言
- 組織体の事業継続の取組みに対する支援
- 組織体の社内コントロールに対するアシュアランス
- 組織体の全社的リスク・マネジメント活動に対するアシュアランス
- データ分析
- 人工知能と自動化されたプロセス/コントロールのガバナンスに対するアシュアランス

内部監査人の注目トピック — リスクを増加させる領域

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

13. 以下のビジネスリスクに対する、内部監査が認識する重大性の優先順位をお答えください。*

回答にあたり、本ガイドをご参照ください：

- 5 — 極めて重大：本リスクは、組織体のビジネスや業界全体に内在するものです。主要な目標や目的を達成する組織体の能力に大きな影響を与えます。
- 4 — 概ね重大：本リスクにより、組織体によって設定されたいくつかの主要な目標と目的への影響が、許容レベルを超える可能性があります。
- 3 — まあまあ重大：本リスクにより組織体によって設定されたいくつかの主要な目標および目的への影響が、平均または最低許容レベルを超える可能性があります。
- 2 —それほど重大ではない：本リスクが発生しても、組織体が設定した主要な目標や目的の大部分が達成されることとなります。
- 1 — ほとんど影響はない：本リスクは、組織体の主要な目標や目的にまったく影響を与えません。

- サイバーセキュリティ（情報セキュリティ、データプライバシー、データ保護など）
- IT リスク（変更管理、個人データ管理、アクセス管理など）
- サステナビリティ/環境リスク
- 財務リスク
- 事業継続リスク
- サードパーティ・リスク

- コミュニティ/利害関係者との関係リスク
- レピュテーション・リスク
- 戦略リスク

14. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

準備できている

- 内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている
- 一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号 16 の質問に進んでください。
- 準備できていない
- 大半の領域（能力、人員、ツールおよび手順）で改善が必要です。この回答を選択した場合は番号 16 の質問に進んでください。

15. サイバーセキュリティとプライバシーに関連するリスクへの対処について、経営陣を支援する内部監査人はどのような関与をしますか?*

- 信頼されるアドバイザー — 内部監査人は、組織体内のネットワークセキュリティとプライバシーを強化する対策を策定するために、経営陣および/または影響を受ける部門に対して適時提案を行っています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

16. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

IT リスク（変更管理、個人データ管理、アクセス管理など）

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている：一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号 18 の質問に進んでください。
- 準備できていない：大半の領域（能力、人員、ツールおよび手順）で改善が必要です。この回答を選択した場合は番号 18 の質問に進んでください。

17. IT リスクへの対処について、内部監査人はどのような関与をしますか。*

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

18. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

事業継続リスク

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている：一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号 20 の質問に進んでください。
- 準備できていない：大半の領域（能力、人員、ツールおよび手順）で改善が必要です。この選択肢を選択した場合は#20の質問に進んでください。

19. 事業継続リスクへの対処について、内部監査人はどのような関与をしますか。*

- 信頼されるアドバイザー — 内部監査人は、組織体の事業継続への取組みを改善するために、経営陣および/または影響を受ける部門に対して適時提案を行っています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

20. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

財務リスク

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている：一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号 22 の質問に進んでください。
- 準備できていない：大半の領域（能力、人員、ツールおよび手順）で改善が必要です。この回答を選択した場合は番号 22 の質問に進んでください。

21. 財務リスクへの対処について、内部監査人はどのような関与をしますか。*

- 信頼されるアドバイザー — 内部査人は、経営陣および/または影響を受ける部門に対して財務目標を達成しつつ、リスク軽減の提案を適時行っています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

22. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

事業継続リスク

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている：一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号24の質問に進んでください。
- 準備できていない：大半の領域（能力、容量、ツールおよび手順）で改善が必要です。この回答を選択した場合は番号24の質問に進んでください。

23. 内部監査人は、事業運営への対処について、経営陣を支援する内部監査人はどのような関与をしますか。*

- 信頼されるアドバイザー — 内部査人は、潜在的懸案事項に照らして事業継続の対策を策定するために、経営陣および/または影響を受ける部門に対して適時提案を行っています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

24. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

サードパーティ・リスク

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている：一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号26の質問に進んでください。

- 準備できていない：大半の領域（能力、容量、ツールおよび手順）で改善が必要です。この回答を選択した場合は番号18の質問に進んでください。

25. サードパーティ・リスクへの対処について、内部監査人はどのような関与をしますか。*

- 信頼されるアドバイザー — 内部査人は、適切なサードパーティを識別するために、経営陣および/または影響を受ける部門に対して適時提案を行っています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

26. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

コミュニティ/利害関係者との関係リスク

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている：一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号28の質問に進んでください。
- 準備できていない：大半の領域（能力、容量、ツールおよび手順）で改善が必要です。この回答を選択した場合は番号28の質問に進んでください。

27. コミュニティ/利害関係者との関係に関連するリスクへの対処について、内部監査人はどのような関与をしますか。*

- 信頼されるアドバイザー — 内部査人は、コミュニティ/利害関係者との関係を改善するために、経営陣および/または影響を受ける部門に対して適時提案を行っています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

28. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

レピュテーション・リスク

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている：一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号30の質問に進んでください。
- 準備できていない：大半の領域（能力、容量、ツールおよび手順）で改善が必要です。この回答を選択した場合は番号30の質問に進んでください。

29. レピュテーション関連するリスクへの対処について、内部監査人はどのような関与をしますか。*

- 信頼されるアドバイザー — 内部監査人は、組織体の評判を改善する方法を識別するために、経営陣および/または影響を受ける部門に対して適時提案を行っています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

30. これらのリスクに対するコントロールを評価するにあたり、内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

戦略的リスク

- 準備できている：内部監査は、これらのリスク分野に対応する能力、人員、ツールおよび手順を準備しています。
- 概ね準備できている：一部の領域（能力、人員、ツールおよび手順）のうちの1つか2つに改善が必要です。この回答を選択した場合は番号32の質問に進んでください。
- 準備できていない：大半の領域（機能、人員、ツールおよび方法論）で必要とされる改善。この回答を選択した場合は番号32の質問に進んでください。

31. 内部監査人は戦略的リスクへの対処について、どのような関与をしますか。*

- 信頼されるアドバイザー — 内部監査人は、リスクを軽減し、ビジネス環境における不確実性をよりうまく乗り切る方法について、経営陣および/または影響を受ける部門に対して適時提案を行っています。
- コンサルタント — 内部監査人は、主要なリスク分野に対処する方法について、定期的に助言を提供しています。
- 必要に応じた対応 — 内部監査人は、経営者が求める場合にのみ、関連するリスクとコントロールについて助言し、評価します。

内部監査人の視点のシフト

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

32. 以下の項目のうち、影響が最も大きいのは5、最も小さいのは1として、内部監査部門の現在の状態にどのような影響を与えるかをお答えください。*

- 高度な自動会計システムの開発
- 事業のクラウド化
- 変化率と経済の変動性
- 会計とビジネス基準のより一層の調和
- 次世代への異なった希望や期待
- サードパーティに対する委託業務
- 文化の多様性が拡大する職場の変化

33. 今後数年間で内部監査をめぐる環境に変化があることを踏まえ、内部監査人にとってさらに重要になると思われるスキルは、次のうちのどれですか。*

- 重要ではない
- やや重要
- 概ね重要
- とても重要

- ITのコンセプトに関する知識
- コミュニケーション・スキル（ビジネス・パートナーシップ、関係構築を含む）
- 業界特有の知識
- 経営状況に関する認識
- 新しい傾向（例：モバイルおよびクラウドテクノロジー、デジタル通貨）に関する認識
- 基本的な簿記・経理のスキル
- コンプライアンス報告
- 最新課題に関する認識
- 高度な投資評価・分析
- 過去のデータ分析

34. 内部監査にとって予想される課題の変化について、もし追加的な洞察がございましたらお答えください。

内部監査における新たな傾向とテクノロジー

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

35. 過去 5 年間において、あなたの組織体がデジタルへ移行したことは、どの程度の意義がありましたか。* この質問におけるデジタルまたはデジタル化は、組織体のオペレーションを最適化するためのテクノロジーと電子リソースの統合に関するものを指します。

- 極めて重要：組織体は、重要度の低いプロセスを含むすべてのプロセスをデジタル化しました。
- 概ね重要：組織体は、すべてのビジネスで重要なプロセスをデジタル化しました。
- まあまあ重要：組織体は、ビジネス上重要なプロセスの一部をデジタル化しました。
- それほど重要ではない：組織体のビジネスにおける重要なプロセスのうち、デジタル化に移行したものはほとんどありません（10～20%程度）。
- 移行なし：組織体は業務プロセスのデジタル化にまだ移行していません。

36. 今後 5 年間、組織体はテクノロジーをどのように活用すると思いますか。*

- 既存のテクノロジーと新たなテクノロジーは、(すべてではないにしても) ほとんどのビジネスプロセスで活用されるでしょう。
- 既存のテクノロジーと新たなテクノロジーは、重要または関連するビジネスプロセスにおいて活用されるでしょう。
- 既存のテクノロジーは、ビジネスで活用されると同時に、その使用を最適化できるツールも検討されるでしょう。
- 既存のテクノロジーは、大きな変化なくビジネスで活用されるでしょう。

37. 組織体における技術の発展について内部監査部門はどのような準備をしていますか。*

- 完全に準備できている：内部監査人は、組織体の IT ロードマップおよび現在の先進的な実践方法ごとに、既存および潜在的な技術の更新に対処するために、すべての作業プログラムを更新できています。IT ロードマップは、新しい技術に関連するあらゆるリスクに対処するために、常に更新されています。
- 概ね準備できている：内部監査部門は、組織体の IT ロードマップに基づいていくつかの技術的な更新と、先進的な実践に対処するために、ほとんどの(すべてではないにしても) 作業プログラムを更新しました。
- ある程度準備できている：内部監査部門は、組織体

の IT ロードマップに基づいていくつかの技術的な更新に対処するために、作業プログラムのいくつかを更新し、将来、主導的な実践方法の実施を検討する計画です。

- 準備段階：内部監査部門は現在、組織体の IT ロードマップの更新に適応するための作業プログラムを作成しています。低減計画は、組織体によってアプリケーションが実施された後にのみ提案されます。
- 準備できていない：組織体は現在、技術の進歩の影響を検討しており、IT ロードマップを作成中です。

38. 組織体における技術の進歩に対応するための準備状況について、さらに詳しくお答えください：

39. 内部監査人は、監査プロセスの一環としてロボティック・プロセス・オートメーション(RPA)を適用または活用していますか。*

RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)は「仮想人間(virtual human)」の役割を果たし、一連の指示を通して作業を実行するために必要な手作業のプロセスを複製します。

RPA ソリューションは、スピード、精度、生産性を向上させながら、人々と協働します。

- はい
- いいえ。この回答を選択した場合は番号 41 の質問に進んでください。

40. RPA を使用して自動化できる内部監査人の業務の例をいくつか示します。内部監査人は、以下の各業務において、どの程度まで RPA を活用し得るでしょうか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。

- 4 - 監査におけるすべての項目に適用される
- 3 - 監査のすべての重点項目に適用される
- 2 - 監査の主な重点項目にある程度適用される
- 1 - 監査の主な重点項目にほとんど適用されない

- 監査項目の識別、責任者へのメールの送信
- 年次監査計画に対する進捗状況の追跡、または主要リスク指標 (KRI) の追跡とモニタリング
- 監査委員会および管理報告書のテンプレートまたは内部監査のバランススコアカードの入力を含む、報告およびダッシュボーディング活動の自動化
- マスターデータファイルなど、あらゆるシステムにおけるデータ品質の評価、フィールドの完全性のチェック、重複、妥当性の検証
- 期日未達時のフォローアップの実施

41. 内部監査人は、自らの監査プロセスの一環として、データ分析を適用または利用していますか。*

データ分析とは、それらが含む情報に関する結論を引き出すためにデータセットを調査するプロセスのことです。

データ分析技法を使用すると、生のデータを取り出し、パターンを明らかにしてそこから貴重な洞察を引き出すことができます。

- はい
- いいえ。この回答を選択した場合は番号 43 の質問に進んでください。

42. データ分析ツールを使用することで、手動で実行される一部の内部監査業務を置き換えることができ、これにより業務効率を向上させることができます。内部監査人は、以下の各業務において、どの程度までデータ分析ツールを活用していますか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。

- 4 - 監査におけるすべての項目に適用されている
- 3 - 監査のすべての重点項目に適用されている
- 2 - 監査の主な重点項目にある程度適用されている
- 1 - 監査の主な重点項目にほとんど適用されていない

- 大規模データの調査による変則性、傾向、リスクの識別、リスク評価と根本原因分析のための指標
- 全トランザクションをカバーする処理データおよびサンプリングの代わりにマスターデータ
- 結論への説得力のあるエビデンスを提供するために、複数のソースおよびシステムから関連データを収集する
- 見積もりを置き換える際の誤謬や課題の影響の定量化

43. 内部監査人は、監査プロセスの一環として、クラウド・コンピューティングを適用または利用していますか。*

クラウドコンピューティングとは、オンプレミス・サーバーではなく、インターネット（通常はサードパーティがホストするサーバー）を介したデータやプログラムの保存とアクセスを指します。

- はい
- いいえ。この回答を選択した場合は番号 45 の質問に進んでください。

44. 以下は、クラウドコンピューティングが提供するメリットです。業務の実行におけるクラウドコンピューティングサービスの活用を検討するにあたり、内部監査チームは各利点に対してどの程度の優先順位を付与しますか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。

- 5 - 組織体は、内部監査業務においてクラウドコンピューティングを使用する際に、この利点を重視している
- 4 - 組織体は、内部監査人業務においてクラウドコンピューティングを使用する際に、この利益を可

能な限り考慮している

- 3 - 組織体は、内部監査人業務においてクラウドコンピューティングを使用する際に、この利益をしばしば考慮している
- 2 - 組織体は、内部監査人業務においてクラウドコンピューティングを使用する際に、この利益を稀に考慮している
- 1 - 組織体は、内部監査人業務においてクラウドコンピューティングを使用する際に、この利益を考慮していない

- 大量のデータ維持の要求に応えるためのデータストレージの拡張性と信頼性
- インターネット接続されている限り、異なるユーザーから保存データにいつでもアクセス可能できること
- さまざまなユーザーのデータ変更をリアルタイムに同期して協働し、更新の監視と変更の追跡を向上させる機能
- データバックアップ機能により、緊急事態発生時に重大なデータ損失のリスクを軽減できること

45. 内部監査部門は、監査プロセスの一環としてアジャイル監査を適用または利用していますか。*

アジャイル監査では、内部監査に俊敏な方法論が適用されます。厳格な監査計画に代わり、継続的に更新されている継続中の監査とプロジェクトが存在し、リソースが利用可能になった後に実行可能となる、リスクと企業のニーズに基づいて優先順位が決定されます。

- はい。
- いいえ。この回答を選択した場合は番号 47 の質問に進んでください。

46. 俊敏な原則と方法論は、現在、どのような仕事や業界にも適用可能であること。内部監査チームは、内部監査業務を実行するにあたり、どの程度俊敏な原則と方法論を適用していますか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。:

- 4 - 内部監査業務を実行する際には常に俊敏な原則が適用される
- 3 - 内部監査業務を実行する際には、可能な限り俊敏な原則が適用される
- 2 - 俊敏な原則は、内部監査人業務を実行する際にしばしば適用される
- 1 - 俊敏な原則は、内部監査業務を実行する際にはほとんど適用されない

- 作業範囲と成果物の変更または予期しない状況によって引き起こされる作業変更に対応するために、柔軟で適応性のある高レベルの監査計画およびプロジェクト計画を策定する
- すべての段階（監査計画、実査、レビュー、報告）

の短期的計画、最後に実行する必要のある特定の目的と一連の業務を含む各工程、長期間でステップを順番にスケジュールする代わりに結果の頻繁に報告することなどを含む監査およびプロジェクトの短期的計画を策定する

- チームの進捗状況を更新し、すでに完了した業務、これらの業務の実行における難易度、および残務を識別するために、短期的なステータス確認会議をより頻繁に予定すること
- チームコミュニケーションを増やし、協働を促進し、課題をタイムリーに解決すること

47. 内部監査人は、監査プロセスの一環として、ガバナンス、リスク・マネジメント、コンプライアンス(GRC)を適用または利用していますか。*

この問題の背景には、組織体の全社的ガバナンス、組織体のリスク・マネジメント、法規制の遵守を管理するためのツールの使用が関係しています。

- はい。
- いいえ。この回答を選択した場合は番号 49 の質問に進んでください。

48. ガバナンス、リスク管理、およびコンプライアンス(GRC)に対する従来のアプローチは、縦割りでの作業に依存しています。

新たに導入されたルールや規制により、これらの機能を担当する関連部門のニーズが生じます。

内部監査チームは、この傾向に関連して、次のような点でどの程度の優先順位を与えられていますか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。:

- 4 – 組織体は、内部監査業務を実行するにあたり、この傾向を非常に重要視している
- 3 – 組織体は、内部監査人業務を実行するにあたり、この傾向を可能な限り考慮している
- 2 – 組織体は、内部監査業務を実行するにあたり、しばしばこの傾向を考慮している
- 1 – 組織体は、内部監査業務を実行するにあたり、この傾向を考慮することはほとんどない

- 各機能の目的とタスクを調整およびモニタリングして、組織体の目標の達成により大きな貢献をする
- 共通のシステム、方法論、リスク評価、モニタリング及び追跡の実施におけるリスク及びコントロールの用語の活用
- 経営陣と取締役会に対する、よりまとまりのある調整された情報フローの報告に透明性を提供し、より良い分析と推奨、および効果的な意思決定につなげる
- 各機能(GRC)の責任間で起こりうる利益相反を防ぐために、協調的に作業するとき独立性の概念を維持する。

3 ラインモデル部門間の連携

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたまままで閉じないでください。

49. あなたの組織体には、内部監査とは別にリスク・マネジメント部門とコンプライアンス部門が配置されていますか。*

- はい、私の組織体には、内部監査部門、リスク・マネジメント部門、コンプライアンス部門が独立して配置されています。
- はい、私の組織体には、内部監査部門、リスク・マネジメント部門の両方がありますが、独立したコンプライアンス部門は配置されていません。このオプションを選択した場合、#54の質問に進んでください。
- はい、私の組織体には、内部監査部門、コンプライアンス部門の両方がありますが、独立したリスク・マネジメント部門は配置されていません。この回答を選択した場合は番号56の質問に進んでください。
- いいえ、コンプライアンス機能とリスク・マネジメント機能の両方が、内部監査部門によって実施されています。この回答を選択した場合は番号58の質問に進んでください。

50. 内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門とどの程度やり取りをしていますか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。:

- 5 — 常にやり取りをしている：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と常にやり取りをしています。
- 4 — ほとんどの時間やり取りをしている：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と、ほぼ常にやり取りをしています。
- 3 — 比較的頻繁にやり取りをしている：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と、比較的頻繁にやり取りをしています。
- 2 — 時々やり取りをしている：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と、時々やり取りをしています。
- 1 — 全くやり取りをしていない：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と全くやり取りをしていません。

- リスク・マネジメント戦略の策定
- 機能またはプロセスとしての全社的リスク・マネジメント（ERM）の確立
- リスク・ワークショップの推進
- 経営者のリスク対応の推進
- 事業全般にわたるリスクのモニタリング

関連リスクの報告

51. さらなる洞察（もしあれば）を提供してください。

52. 内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門とどの程度やり取りをしていますか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。

- 5 — 常にやり取りをしている：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と常にやり取りをしています。
- 4 — ほとんどの時間やり取りをしている：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と、ほぼ常にやり取りをしています。
- 3 — 比較的頻繁にやり取りをしている：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と、比較的頻繁にやり取りをしています。
- 2 — 時々やり取りをしている：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と、時々やり取りをしています。
- 1 — 全くやり取りをしていない：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と全くやり取りをしていません。

事業活動のコンプライアンス不遵守による影響の判断

組織体内で識別されたリスクの評価と報告

コントロールおよび法令遵守の文化の確立

社内プロセス、コントロール、リスク、方針のモニタリング

53. さらなる洞察（もしあれば）を提供してください。

この回答を選択した場合は番号60の質問に進んでください。

54. 内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門とどの程度やり取りをしていますか。

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。

- 5 — 常にやり取りをしている：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と常にやり取りをしています。
- 4 — ほとんどの時間やり取りをしている：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と、ほぼ常にやり取りをしています。
- 3 — 比較的頻繁にやり取りをしている：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と、比較的頻繁にやり取りをしています。
- 2 — 時々やり取りをしている：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と、時々やり取りをしています。
- 1 — 全くやり取りをしていない：内部監査部門は、組織体のリスク・マネジメント部門と全くやり取り

をしていません。

- リスク・マネジメント戦略の策定
- 全社的リスク・マネジメント（ERM）の確立
- リスク・ワークショップの推進
- 経営者のリスク対応の推進
- 事業全般にわたるリスクのモニタリング
- リスクに関する報告

55. さらなる洞察（もしあれば）を提供してください。この回答を選択した場合は番号 60 の質問に進んでください。

56. 内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門とどの程度やり取りをしていますか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください。

- 5 – 常にやり取りをしている：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と常にやり取りをしています。
- 4 – ほとんどの時間やり取りをしている：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と、ほぼ常にやり取りをしています。
- 3 – 比較的頻繁にやり取りをしている：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と、比較的頻繁にやり取りをしています。
- 2 – 時々やり取りをしている：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と、時々やり取りをしています。
- 1 – 全くやり取りをしていない：内部監査部門は、組織体のコンプライアンス部門と全くやり取りをしていません。

- 事業活動のコンプライアンス不遵守による影響の判断
- 組織体内で識別されたリスクの評価と報告
- コントロールおよび法令遵守の文化の確立
- 社内プロセス、コントロール、リスク、方針のモニタリング

57. さらなる洞察（もしあれば）を提供してください。この回答を選択した場合は番号 60 の質問に進んでください。

58. コンプライアンスとリスク・マネジメントの双方が内部監査人の活動対象となることを考慮し、内部監査人の客観性が損なわれないようにするために、どの程度以下の対策を講じていますか。*

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください：

- 5 – 常にコントロールを実施している：コントロールは常に実施されています。

- 4 – ほとんどの時間実施されている：コントロールは、ほぼ常に実施されています。
- 3 – 比較的頻繁に実施されている：コントロールは比較的頻繁に実施されています。
- 2 – 時々実施されている：コントロールは時々実施されています。
- 1 – 全く実施されていない：コントロールは全く実施されていません。

状況と影響の両方が、上級管理職および統治機関に伝達され、あいまいさを避けるために内部監査基本規程に明文化されます。

内部監査人は、経営上の意思決定を行ったり、プロセスの決定権を付与されるべきではありません。

統治機関は、内部監査が義務付けられている機能の範囲外で行った活動について、資格のある第三者からの独立した客観的なアシュアランスと助言を求めています。

監査対象に関して活動をおこなった監査人は、少なくとも1年間、その監査対象に関するアシュアランス活動を行うことを避けるべきです。

59. さらなる洞察（もしあれば）を提供してください。

混乱における信頼される代理人としての内部監査人

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

60. 進化する未来において成功するために、信頼できるデータ、信頼できるインテリジェントテクノロジー、信頼できるビジネス成果からインテリジェンスを創造し、知的な組織体へと転換しなければなりません。ビジネス環境が絶えず変化し、混乱が増大する中で、内部監査人はどのようにして組織体内の様々な利害関係者からの信頼を築くことができるのでしょうか。優先順位の高いものを上から並べてください。*

- 新たなツールとリスク評価戦略を用いた、リスク評価に関する内部監査人による最新のアプローチについて、利害関係者とコミュニケーションを取ります。
- リスク評価プロセスにリスク知能を組み込み、予測およびリアルタイムの報告を可能にすることで、戦略的優先事項と整合した俊敏な意思決定を促進します。
- 顧客中心で関係主導の事業戦略とリスク戦略を策定するために、組織体内のリスク転換の分科会を推進します。
- リスク評価とリスク戦略手法を転換し、混乱に備えます。

61. また、内部監査人が様々な利害関係者間の信頼を構築するための付加的手段をお聞かせください。

内部監査業務の将来 — 内部監査部門のスキル

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

ご回答にあたり、以下の定義を参照ください：

- 5 — 極めて重要：これはどの業界、組織体、ビジネス環境の変化にかかわらず関連性があります。
- 4 — 概ね重要：これは、どの業界や組織体にも当てはまりますが、その関連性はビジネス環境の変化に左右されます。
- 3 — まあまあ重要：その関連性は、内部監査人が現在取り組んでいる業界または組織体によります。
- 2 — あまり重要ではない：このようなスキルが今後も関連性を持ち続ける可能性は低いです。
- 1 — 重要ではない：今後、このようなスキルが意味をもたない可能性が高いです。

62. 今後 5 年間における内部監査部門にとって、以下の技術的スキルの重要度はどの程度だと思いますか。*

- リスク分析、コントロール評価手法
- ガバナンス、リスク、コントロールのツールや手法
- データ収集・分析のツールや手法
- IT・ICT および技術ベースの監査技法の活用
- 財務分析のツールおよび手法
- フォレンジック・不正認識
- 統計的サンプリング
- 総合的品質管理
- ISO・品質知識
- バランススコアカード
- ビジネスの理解
- コントロールの種類の識別
- ビジネスプロセスの分析

63. 今後 5 年間における内部監査部門にとって、以下の非技術的スキル、ソフトスキルの重要度はどの程度だと思いますか。*

- コミュニケーションスキル
- 課題抽出および解決スキル
- 内部監査への価値を促進する能力
- 組織を取りまとめる能力
- 問題解決、交渉スキル
- プロジェクト管理能力

64. 今後 5 年間における内部監査部門にとって、以下の行動スキルの重要度はどの程度だと思いますか。*

- 秘密の保持
- 客観性
- コミュニケーション
- ガバナンスおよび倫理感覚
- チームプレーヤー
- 人間関係構築

- 単独業務
- リーダーシップ

内部監査業務の将来 — 内部監査人の機動性と職場環境

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

65. 内部監査人の事業モデルは今後 5 年間でどのようになるとお考えですか。

以下の選択肢から 3 つを選んでください。*

- 内部監査人の資源調達にける「ジャスト・イン・タイム」の活用。
- 内部監査が、委託可能な業務を第三者のサービスプロバイダに完全にアウトソーシングできること。
- 内部監査部門に他部門から独立した常勤のスタッフががいること。
- 内部監査部門が、専任スタッフおよび第三者のサービスプロバイダーの両方を活用できること。
- 組織体内のプロセスの知識を活用するために、他部門からの内部監査部門への部署移動が検討できること。
- その他

66. 今後 5 年間の内部監査に関する以下の業務環境において、どのようなことが期待されますか。

以下の選択肢から 3 つを選択してください。*

- 内部監査人が、在宅勤務環境により慣れ親んでいること。
- 内部監査人が、オフィス・スペースを十分に活用し、引き続き職場にて勤務していること。
- 内部監査部門が、これまで以上にオフィスの共働スペースの使用していること。
- 内部監査人が、ホテルを使用して仕事をしていること。
- 内部監査人が、指示された業務環境（例：監査部門が実査と行っている部門のオフィス・スペースに配属される）にて業務をおこなうこと。
- その他

内部監査業務の将来 — 従業員の福利が焦点

注意事項：

調査回答を一通りおこなっていただくことを推奨いたしますが、調査回答を途中で停止する場合は、ブラウザを開けたままで閉じないでください。

67. 内部監査人にとって、従業員の福利は組織体としてどの程度重要であると思いますか?*

- 最も重要：組織体が、労働時間以外であっても従業員の福利厚生に最大限の努力を払うこと。
- 比較的重要：組織体は従業員の福利厚生を重視しています。

- 業務のために従業員の福利が無視されたり犠牲になったりすることは減多にありません。
- 時々重要：組織体は従業員の福利厚生を重視しています。
- しかし、業務のために従業員の福利が無視されたり犠牲になったりすることもあります。
- ほとんど重要ではない：組織体は従業員の福利厚生を少し重視しています。
- しかし、ほとんどの場合、従業員の福利厚生は業務のために無視されたり犠牲になっています。
- 重要ではない：組織体は、従業員の福利厚生は組織体の改善にあまり寄与しないと考えており、従業員の福利厚生を重視していません。

68. 内部監査部門として、組織体の福利厚生に対しどのような考えますか。

重要と思われるすべての項目を選択してください。

*

- 財政支援の拡充、医療給付を改善など福利厚生の柔軟な支援。
- 業務スケジュール・業務体制に対する柔軟な対応。
- 内部監査部門における精神衛生に対するアプローチ転換。
- その他